

音楽は感動を 共感できこる



鹿児島県吹奏楽連盟理事長

きくち よいち
菊地 洋一さん

Yoichi Kikuchi



鹿児島と吹奏楽のゆかりは深い。幕末の生麦事件から火ぶたを切られた薩英戦争の時、夕闇せまる錦江湾上の敵艦から流れてきた、聞き慣れない妙なる音楽に興味を持った先見の明ある薩摩藩主が、英国との和議後いち早く軍楽隊を創ることに着手。明治2年に横浜で英国軍楽隊を指導していたフエントン氏のもとに、藩士30名を派遣し軍楽を習得させた。英国のベッソン社から楽器を取り寄せ、わずか3ヶ月後の明治3年9月8日、明治天皇の御前で「君が代」を演奏したのが、日本吹奏楽の始まりと言われ、「吹奏楽発祥の地薩摩の国」と言われるゆえんである。

それから140年を経た現在でも鹿児島島の吹奏楽は大変盛んで、県吹奏楽連盟には小学校から一般まで260を超える団体が加盟しており、年々演奏技術や表現力のレベルも向上し、九州大会でもすべての部門で上位に名を連ね、全国大会に出場している。

そんな鹿児島で永年に渡り、吹奏楽の発展に尽力されているのが県吹奏楽連盟理事長の菊地洋一さん。

宮城県仙台市の出身で、昭和42年に鹿児島島の開聞中学校の教員として赴任。以来、音楽の教師として教壇に立ちながら吹奏楽に携わり、定年退職後の昨年から加治木女子高等学校で指導を続けている。

今年10月に開催される「なんりんピック鹿児島2008」では式典音楽部会の委員として大会の準備や運営に関わり、開会式では自らも入場行進の演奏を指揮する。

「実家が鍛冶屋だったので、リズム感を持っていたと思うんですよ」と笑う菊地さんに吹奏楽への想いなどを語ってもらった。

「二音楽魂」をモットーに

東京オリンピックでも演奏されたとか

父親を早くに亡くして家計が苦しかったので、夜間の高校へ就職進学したのですが、陸上自衛隊が東京オリンピックのファンファーレ隊員を募集していることを知った兄が、家計の負担軽減のためと勝手に応募してきて、それで陸上自衛隊中央音楽隊に配属され、東京オリンピックの開閉会式で式典演奏に参加しました。

その後音楽大学で学んだのですが、東京オリンピックが終わって目標を無くし退職を決定したとき、楽長から「せっかく学んだことを生かさないのはどうか。鹿児島は吹奏楽発祥の地だから、3年間ぐらい行つて指導してみても」と勧められて、それで鹿児島県の教員採用試験を受けたのですが、初任地の開聞で嫁さんをもらう



菊地先生が指導する音楽室には「二音楽魂」の文字を掲げている。

て、結局現在に至っていますし、今は鹿児島に永住するつもりでいます。

音楽を通してどのような指導を

音楽室にも張り出してあるのですが「二音楽魂」という言葉をモットーに指導しています。何でもそうですが、音楽も同じで演奏に心を込めることが大切なんです。どんなに完成された演奏でもその曲への想いがないと心に響くものがないんです。その曲が持つイメージや想いを音に乗せ、その音楽で自分が何を伝えたいのかを考えさせ、それを表現させることが大切なんです。

それから平素の音楽活動を通して、人としての礼節や感謝する心を育てて欲しいですね。吹奏楽活動ができるのも、学校や地域、両親の理解があつてのこと、そこには子どもたちへの多くの思いが込められていることに気づいて欲しい。

親は子どもに口うるさく「勉強しろ」と言います。そのまま受け取るとそこまですが、その言葉の先には「おまえが大きくなった時、希望する道に進めず悲しむ姿を見るのは忍びない。だから頑張つて」という口にはしない親の愛が込められているんです。そんな思いを感じ取れる感性豊かな人間になって欲しいし、それが逆に他への気配りや優しさにつながっていくと思うのです。

吹奏楽の楽しさとは

演奏する方も聴いている方も、感動を共感できることが一番だと思います。

病院に慰問演奏に行つた時のことです。感情をまったく面に出さない方たちの前で演奏したのですが、その方たちが若い頃の曲を演奏すると、リズムをとったり涙を流したりされるんです。人にはそれぞれ的人生があり、曲によっては郷愁を感じたり喜びを感じたりするのです。そんな曲を子どもたちが心を込めて演奏することで感動してくださるのです。その様子を見ると子どもたち自身が、やつてよかったと喜びを深く感じるようになります。

それに「音楽をたしなむ者に悪人はなし」と言い伝えられているように、集団生活にとけ込めず、教室にも入れない児童生徒でも、吹奏楽の活動には参加している事例がたくさんあります。自分の居場所があり、集団から認められることで自らの存在感を実感し、日々の部活動をとおして喜びを感じ、生き甲斐を持つなど「生きる力」を身につけつつ生活を充実させていることが、吹奏楽の素晴らしところでもありますね。

ねりんピックの委員もされている

開会式の入場行進曲には鹿児島にゆかりのある曲として、昭和47年に鹿児島で開催された太陽国体の行進マーチをはじめ「我は海の子」を演奏します。あまり知られていませんが「我は海の子」は明治41年に、鹿児島市生まれの宮原晃一郎氏



吹奏楽コンクールで演奏する加治木女子高等学校。今年は「オペラ座の怪人」を演奏した。

が、白砂青松の天保山海岸の景観を詠つたものです。絶好の機会ですので合唱付きに編曲して演奏します。

また、東京オリンピックで演奏されたオリンピックマーチも入れたいと思います。当時青春時代だった中だった方たちが、今回のねりんピックで選手として参加する世代になっているので、思い入れが深いのではないかと思うのです。せっかく鹿児島で開催される大きな大会ですし、参加される方たちは年輩ですが気持ちはまだまだ若いと思うので、心から楽しんでもらえるように音楽を通して大会を盛り上げたいですね。

それと、今回演奏してくる中高生にとつても、自分が昔そうだったように、その日その場に臨場することで得られる感動が、彼らの一生の思い出に残る財産になればいいと思います。